

情報理工学系研究科

I	研究水準	研究 13-2
II	質の向上度	研究 13-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、比較的新しく活性度の高い分野であることもあり国内外の会議、学術雑誌を合わせた発表論文数は、平成 19 年度 1,300 件以上となっており、特許保有数も平成 19 年度 24 件ある。研究資金の獲得状況については、共同研究・受託研究等による研究資金は約 28 億円あり、21 世紀 COE プログラムをはじめ、先端融合領域イノベーション創出等のプロジェクトも立ち上げ、研究費を獲得していることなどは、優れた成果である。

以上の点について、情報理工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、情報理工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、VR、制御、アルゴリズム等の分野で卓越した成果を上げており、巨大テキスト集合の処理が可能になるなど注目されている。また、平成 19 年度は、主要な学会賞等を 19 件授賞している。社会、経済、文化面では、VR 技術を用いて文化芸術分野に応用し、マヤ文明の高品位 VR コンテンツは一般に公開され評価を得ていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、情報理工学系研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、情報理工学系研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は1件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。